

理科 第4学年 ●自由研究 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：既習の内容や生活経験を根拠に、「研究で分かったことを、どの記録を使えば相手に伝えられるだろうか」について予想を立て、調べた事実と関係付けて表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。第3の2(1)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：自由研究の題材と記録を確認し、問いに対して必要な証拠があるかを見直す。生活経験や前の観察に基づく予想を使って調べ直せる点を選び、写真、観察日、条件、結果が対応した説明資料にする。研究を用意していない児童は授業中の共通記録を使う。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。第3の2(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：見た目のきれいさや費用で評価せず、疑問と調べ方と記録の関係を見る。保護者の援助が多い作品と一人で行った作品を成果の大きさだけで比較しない。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。第3の2(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。質問を受けて不明な条件を見直す活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：家庭で危険な薬品・火・電源を使う研究を追試しない。動植物の採集や個人情報を含む研究は安全と権利の面から公開範囲を見直す。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、第3の2(1)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：自由研究の題材と記録を確認し、問いに対して必要な証拠があるかを見直す。生活経験や前の観察に基づく予想を使って調べ直せる点を選び、写真、観察日、条件、結果が対応した説明資料にする。研究を用意していない児童は授業中の共通記録を使う。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全2時間は啓林館の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「研究で分かったことを、どの記録を使えば相手に伝えられるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「研究で分かったことを、どの記録を使えば相手に伝えられるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。説明を修正し学び方を振り返る活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

